

会場が変更になりました！ご注意ください

女性労働問題研究会 初夏の研究例会&読者会

女性労働研究 55号は、今回「均等法 25年と女性労働 分断から連帯へ」というテーマで組みました。コース別で正規女性が分化され、正規、非正規の激しい格差の固定化に加えて、非正規の中でもパート、契約、派遣、と「雇用の多様化」が進み、配偶者控除の中で働く、一人の生活を支える、さらに子どもの扶養義務を持つ、といった状況の「多様化」、それぞれの個別な事情とからみあってシュレッダーで裁断されているかのごとく利害が対立し手を結ぶのが難しくなっていることを実感します。

長くシングルマザーの生活実態に即して研究を続けてこられた湯澤直美さん、藤原千沙さんのお二人は、今回「生活保護受給期間における母子世帯の就業と収入構造」という論文で、細部にわたって対立が張り巡らされている現状を乗り越える視点での研究のあり方を、ご自分たちのテーマに則して示してくれました。職場や生活の中で、一緒に手を結ぶのが難しくなっている実感に参加者からも持ち寄って、どうやって手を結んでいくかを考えるきっかけになったら、と思います。

「シングルマザーの分断から 女性の連帯を考える」

湯澤直美(立教大学)さん・藤原千沙(岩手大学)さん

5月22日(日) 17:30～



参加費—女性労働問題研究会会員：無料、
非会員：500円

【問い合わせ先】榊原 080-5170-0606

*事前の参加申し込みは不要です。

【会場】下記に変更になりました。ご注意ください

東洋大学 白山キャンパス

6号館2階 6205 教室

都営三田線 白山駅より徒歩5分

東京メトロ 本駒込駅より徒歩7分